

【礼拝賛美】

■「キリストは生きておられる」

①主イエスは私たちの 罪ゆえ十字架で
あがないの道を開き
よみがえられた救い主
(おりかえし)

キリストは生きておられる

わがうちにおられる

すべては御手のうちにあり

今日もはげもう 主に守られ

②主イエスの血潮により 新たな望みを
与えられ行く道は
いかに遠くも恐れなし

③主イエスに まみゆる時

真白のきぬ 着て

ハレルヤとほめ歌い

御国の門(かど)を われ進まん

《参考》おりかえし部分の直訳

主が生きておられるのだから
明日に直面できる

主が生きておられるのだから

すべての恐れは消える

主が未来を握っておられるのだから
人生は生きる価値がある

■「神の国と神の義を」

神の国と神の義を まず求めなさい

そうすればみな与えられる

ハレル ハレルヤ

「ヨハネの子シモン、あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」ペテロは答えた。「はい。主よ。私があなたを愛していることは、あなたがご存知です。」(15節)
ペテロは、イエスが三度目も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存知です。あなたは、私があなたを愛していることを知っておられます。」(17節)

2月19日の礼拝で「あなたがたはわたしに会える。わたしが生きるの、あなた方も生きてくる」(ヨハネ十四18、19)の聖句から、『イエスは生きておられる』ということを実際の事実として経験するためヨハネ二十一章前半から学んだ。①主イエスはご自分が生きていることを知らせるため岸辺に立った。②イエスは弟子たちのため湖畔に食事を準備された。それらは、真の愛の交わりを回復してキリストの証人としての使命に生かすためだった。今朝はヨハネ二十一章の後半から、「わたしが生きているので、あなたがたも生きてくる」と言われたペテロに、主がどのように取り組まれた

【教勢報告】
2日 聖日礼拝

第1礼拝	21名
第2礼拝	34名
小学校	3名
ホザナ	4名



6日 受難週祈禱会 14名

9日 イースター聖日礼拝

第1礼拝	14名
第2礼拝	82名(未就学児、小学生、ホザナは第2礼拝を含む)
映画会	37名(新来者4名含む)

かを見る。イエスの愛・ペテロの愛・ペテロの心の痛みを三つを取り上げる。

第1は、ふたりの愛の相違。イエスが「二度目に問うた愛はアガペー(神の愛)。ペテロの答えはフィレオー(人情的愛)。三度目はイエスもペテロと同じフィレオーの愛だった。イエスの求めとペテロの答えには相違がある。人間が神に逆らい、罪に破壊されたゆえに、ペテロは神の愛を持ち合わせていなかった。そこにはペテロの「心の痛み」がある。イエスは三度目の愛をフィレオーの愛で問われた。イエスが自分の目線まで降りて問いかけた優しい愛。その愛にもフィレオーでしか答えられ

ない。イエスを見捨てて逃げ、イエスを知らない拒否した痛み、自らの実質を知らされた痛みだった。

第2は、一つの心と思い。以前、イエスがエルサレムで十字架に死に三日目よみがえると予告した時、ペテロはイエスをいさめたが、イエスは「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」(マタイ十六23)と叱責した。私たちの信仰の心は、どちらが占めているか。それともどちらにも傾く優柔不断の心か。ペテロに見られる相反する心の戦いは私たちへの問いかけである。

第3は、愛に生きる人。後年書かれたペテロの手紙は、「愛」はすべて「アガペー」の愛。宛先の教会は「イエス・キリストを見たことのないけれども愛(アガペー)に満たされていた。十字架は神の愛の至高の表現」。聖霊の御業。主は、ご自身への愛を今も問うている。(英)

4月16日 聖日礼拝

第1礼拝 9時 荻野牧師 荻野し兄
第2礼拝 11時 武山兄 高橋美姉

招詞 イザヤ書43章19節
会衆賛美 新聖歌257

キリストは生きておられる
神の国と神の義を

主の祈り
交読 詩篇16篇1〜11節

礼拝祈禱
使徒信条
聖書朗読

ヨハネの福音書

説教 問われた愛 21章15〜22節
田中英師

会衆賛美 聖歌111

献金

頌栄 聖歌376

祝祷

報告

後奏 感謝祈禱

【招詞(主の招きのことば)】

イザヤ書43章19節「見よ、わた
しは新しいことを行う。今、それ
が芽生えている。あなたがたは、
それを知らないのか。必ず、わた
しは荒野に道を、荒地地に川を設
ける。」アーメン

【本日の予定】

■会堂清掃 第1・第2礼拝終了後

■会長会 談話室 10時15分〜
(会場が牧師室から変更です)

■小学科ホザナ礼拝 3階 11時
お話し 荻野牧師

■バイブルカフェ 談話室
12時15分〜45分

■宣教師部会 3階 13時30分〜

■外部集会

「首都圏イースターのつどい」

〔会場〕淀橋教会(新大久保)

〔時間〕15時30分より

〔メッセージ〕大嶋重徳師

【本日の礼拝奉仕者】

■第1礼拝

礼拝祈禱 司会者

聖書朗読

献金1階

献金祈禱

報告

受付

配信

司会者
司会者

■第2礼拝

礼拝祈禱

聖書朗読

献金1階

献金1階

2階

献金祈禱

報告

会場

受付

司会者

【次週礼拝説教】

説教者 荻野牧師

聖書箇所 ルカの福音書

24章13〜35節

説教題 「エマオの道で」

【復活節】

先週はイースター。イエス様の御復活を記念して礼拝をささげられたことを感謝します。

新約聖書にはイエス様の復活についての使徒たちによる証言が記されています。特に福音書には、復活したイエス様が弟子たちに繰り返し現れたことが記されています。聖書が告げていることは、イエス様の復活は一度限りであるけれども、そのイエス様は今も私たちに現れてくださるといふことです。

教会暦では、イースターからの50日を復活節として過ごします。蒲田シオンの礼拝でも復活のイエス様と弟子たちの関わりを中心に扱います。

そして、聖霊が降られたペンテコステに向かいます。復活の主を経験した弟子たちが聖霊を受けて福音の証し人となっていくます。私たちも聖書に示された出来事が昔話ではなくて、今ここに現わされる恵みとして信仰によって待ち望み受け止めます。

【イースター報告】

風の冷たさはありませんでしたが、あたたかい陽射しに満ちた日曜日でした。多くの兄弟姉妹が来会。久しぶりに用意したイースターエッグが足りなくなるほど。うれしい悲鳴でした。

第2礼拝では総勢27名による特別賛美がありました。80代から10代までの参加で、蒲田シオン教会を象徴するような一コマでした。歌声を聞いた方々からは「迫力のある歌声に感動した」「私も立ち上がり、歌いたくなった」との声が上がり、主の御名が崇められる奉仕でした。

3年ぶりに礼拝堂に来られた方、家族に支えられて来られた方などなど、まさに主の復活に励まされたことが目の前に現わされた時でした。

【お知らせ】

母の日記念礼拝

母の日記念コンサート

*日程 5月14日(日)

*講師・音楽

ベアンテ・ポーマン師(チェロ)
ルリ子・ポーマン師(ピアノ)

《午前》母の日記念礼拝(第2礼拝)
《午後》母の日記念コンサート

※オンライン配信はありません

【教会のコロナ対応について】

蒲田シオンの対応は左記です。ご協力願います。

*礼拝で歌う際にはマスク着用の継続をお願いします。

*歌う時以外は、マスクを外しても構いません。(主の祈り、交読、使徒信条等の発声を伴う部分含めて)

*礼拝奉仕者は、すべてにおいてマスクを外しても構いません。

